

ひなを



町社会 学級の あらまし

公民館では、昨年九月から部
落を中心とした「人づくりを
通しての町づくり」を進めて
きたが、町の社会学級が現在
実施しているその内容を紹介
すると別表のようである。

学習の内容

社会学級の実施状況一覽

▽両析社会学級		
月別回数	学級内容	備考
九月三	学級打合せ	
一〇月一	家庭内の人間関係について	録音教材「夫の言い分・妻の言い分」話し合い
一〇月一	農業経営について	録音教材「仕事を分けあう家庭」映画「嫁の立場」使用
一〇月一	人間関係について	
一〇月一	町政について	
一〇月一	青少年問題について	録音教材「非行少年」映画「十代の反抗」「青少年補導」使用
一〇月一	青少年問題について	
▽中戸社会学級		
月別回数	学級内容	備考
九月三	学級打合せ	
一〇月一	家庭内の人間関係について	録音教材「夫の言い分・妻の言い分」話し合い
一〇月一	農業経営について	録音教材「仕事を分けあう家庭」映画「嫁の立場」使用
一〇月一	人間関係について	
一〇月一	町政について	
一〇月一	青少年問題について	録音教材「非行少年」映画「十代の反抗」「青少年補導」使用
一〇月一	青少年問題について	
▽細谷社会学級		
月別回数	学級内容	備考
九月二	学級打合せ	
一〇月一	家庭内の人間関係について	録音教材「夫の言い分・妻の言い分」話し合い
一〇月一	農業経営について	録音教材「仕事を分けあう家庭」映画「嫁の立場」使用
一〇月一	人間関係について	
一〇月一	町政について	
一〇月一	青少年問題について	録音教材「非行少年」映画「十代の反抗」「青少年補導」使用
一〇月一	青少年問題について	
▽川又社会学級		
月別回数	学級内容	備考
九月二	学級打合せ	
一〇月一	家庭内の人間関係について	録音教材「夫の言い分・妻の言い分」話し合い
一〇月一	農業経営について	録音教材「仕事を分けあう家庭」映画「嫁の立場」使用
一〇月一	人間関係について	
一〇月一	町政について	
一〇月一	青少年問題について	録音教材「非行少年」映画「十代の反抗」「青少年補導」使用
一〇月一	青少年問題について	
▽鶴沼社会学級		
月別回数	学級内容	備考
九月二	学級打合せ	
一〇月一	家庭内の人間関係について	録音教材「夫の言い分・妻の言い分」話し合い
一〇月一	農業経営について	録音教材「仕事を分けあう家庭」映画「嫁の立場」使用
一〇月一	人間関係について	
一〇月一	町政について	
一〇月一	青少年問題について	録音教材「非行少年」映画「十代の反抗」「青少年補導」使用
一〇月一	青少年問題について	

二つを採録、再生録音を中心
にして話し合ったもので、そ
の内容は、
(1)朝の仕事の分担を、或者は
洗濯をやり、或者は小鳥や
犬の世話をする、と云った工
合に仕事を分担して七時ま
でには掃除など一切が終わ
る。というところで、この外
分担任されている仕事以外の
臨時的なこと、例えば訪問
客の接待などはお互にゆづ
り合うこととし、また毎週
土曜日の夕食時には、家族
会議を開き一週間の反省或

いは次週の相談などを行つ
ている。
(2)一家全部が勤め人の関係か
ら話し合いが出来ないので
伝言板を通じてお互に仕事
のことや、その日一日の日
程などを知らせ合っている。
と云うもので、これに関して
石田延生一学級長の司会で話
し合いを行ったが、次のよう
な意見が出た。
①小黒板に記名して行く先を
家族の者に明らかにしておく
ことは、大切なことであ
る。
②各家庭で夕食時などには話
し合つて、お互の仕事が理
解されるようにすべきだ。
③仕事の分担は確に良いが、
仲々むづかしいし、また子
供の場合他の人の分はやら
ないようになつてしまふの
で、その指導には気を配る
必要がある。
④子供が突返をする。これ
は子供の自主性があつてよ
いし、頭からおさひつける
のは良くない。納得づくで
仕事をやらせることが大切

である。
⑤親と子の考え方がかけ離れ
過ぎていく。
⑥結局、仕事を分け合うこと
は、たゞ仕事を分け合うこ
とだけでなく、根本は民主
的な考え方が大切で、お互
の人格を尊重し、個々の立
場を理解して助け合ひなが
ら生活してゆこうと云う心
構えが大切であつて、こう
した仕事を分け合うところ
からは、(1)愛情が湧いてく
る。(2)家族会議をやること
により、家族間の思い過ぎ
が無くなり、自分の身のま
わりのことは自分でするよ
うになる。また、力、年令
に応じて助け合うようにな
る。(3)家庭が明るくなつ
て、主婦の自覚と理解が得
られる。
このように社会学級は、録音
教材・スライド・映画などを
素材として、話し合いの積み
重ねを続けていくわけで、お
互いが話し合つていくうち
に理解もされ、心の交りが深め
られると云うものである。

小桜実験青年学級

研究発表会をひらく

小桜の青年学級は、昨年度文部省の実験青年学級として、また本年度は県より実験青年学級の指定で「青年学級のグループ学習をどう進めようか」などを研究テーマに学習を続けていたが、去る二月二十六日、小桜分館を会場に土浦市・石岡市・筑波郡・新治郡の青年学級関係者三百五十名が参加して、次のような研究発表会が開かれた。

主な研究発表

- 料理グループ 鈴木芳子先生
- 畜産グループ 稲見 虎先生
- 普通作グループ 飯田浩作先生
- 担当講師 飯田浩作先生
- これらグループごとの学習公開の後、江畑徳治学級主事から運営発表とスライドの発表があり、ついで次のような研究発表も行われた。
- 桜クラブの学習活動につ
- いて 坂入 昇
- 若向き加作用作業衣につ
- いて 関 欣子

なものである。
①青年の自主性と創造性を尊
重し、運営面の改善をはか
る。
②地区青年団を強化育成し、
青年団と表裏一体の関係か
ら円滑なる運営を期する。
③魅力ある青年学級とするた
めに学習内容と学習形態の
改善に留意するとともに、
部落学習及びグループ学習
の計画化と相互調整をはか
る。
④年少青年の出席率向上につ
き対策を考える。
⑤生産生活に直結した生産教
育を重視すると共に、新生
活運動の推進として生活課
題の学習を強化する。
などである。

学級の予算

学級生男百七名、女五十八名
で、学級予算は職員手当に三
万一千円、報償費に二万六千
四百円、備品費に十萬円を夫
々組み、その他などで総額十
七万二千円となつていく。

学習課題

講師には高・中・小学校の教
員や農業改良普及員および篤
農家の方が当り、他の学級と
異つてグループ学習、部落学
習を主体として中央学級およ
び個人プロジェクト学習の総
合的学習形態をとつていく。
学習の課題には、
一 総合テーマとして「暮らし
生活をするにはどうした
らよいか」
を掲げ、
①農業経営の改善
②農業技術の向上
③農村生活の改善
などで、学習活動をつづけて
いく。

歳末たすけあい 運動結果報告

町の社会福祉協議会では、昨
年末から今年まで「正月」を
むかえるため、歳末たすけあ
い運動をおしすすめてきまし
たが、みなさん方のご協力と
関係者のお骨折で、つぎのよ
うな総額十三万八千二百余円

の募金成績を収めることがで
きました。ご協力を深謝する
と共に紙上でご報告申し上げ
ます。

募金額

- 柿岡地区 一八、〇四〇円
- 小幡地区 一九、五三〇円
- 芦穂地区 一八、〇五〇円
- 恋瀬地区 二〇、〇四〇円
- 瓦会地区 一一、八九〇円
- 外に 白米二斗六升四合
- 園部地区 二〇、〇七〇円
- 林地区 一一、六三〇円
- 小幡地区 一九、〇一〇円

○柿中学生徒会も協力

柿岡中学校の生徒会では、昨
年末町の社会福祉協議会が
こなつた歳末たすけあい運動
にみんなど協力、小使いを出
しあつて、総額八百十三円を
町役場厚生課に委託した。

伊藤氏

東成井の神明神社再建

大字東成井(園部地区)の神
明神社は昨年七月の十一号台
風で破壊され、再建築を余儀
なくされてきたが、この程同
地出身で東京在住の伊藤弘義
氏によつて、華麗な社殿が再
建された。
総工費は四十余万円といわ
れている。



(写真は再建された社殿)

月五十円で
水道ができる
或る地方の町では、「まず農

家の生活を衛生的にしよう」
と、二十六年三月から一戸月
五十円の貯金をはじめ、現在
この貯金で、町はずれからビ
ニール管でタンク(四十戸分)
に水をおり、各戸に配水で
きる簡易水道を完成すること
ができた。その後、風呂・か
まどと次に改善し時間・労
力の節約から多くの利益を生
みだすことができるようにな
つたという。
自分の力だけでは小さいが、
協力してゆけば現在よりもさ
らに大きな夢が実現されるわ
けですが……
さて、町民の皆さん方はいか
でですか。
より住みよい「おらが町」を
つくるため、みんながよく話
し合つて、小さいことでもく
ふうされるようになされては
いかぬものでしょう。

町役場職員組合を結成

役場職員組合の結成について
は前々からその気運にあつ
たが、こんどこれが結成の運
びとなり、去る二月七日午前
十時から、町立柿岡公民館で
総会を兼ねた結成大会が開か
れた。役員次のとおり。

- 執行委員長 野内 和夫
- 副委員長 鈴木 修照
- 書記長 赤羽根 実
- 執行委員 平重二、石井重
雄、根本俊、塩谷房次

納税貯蓄組合をつくる

一度にたくさん税金を納め
ることは誰しもおなじこと
で苦しいことです。ふだんか
ら心掛けて、税金の分を少しづ
つ貯蓄しておくと割合案に納
めることができます。いろい
ろと有利な特典のある納税貯
蓄組合を作つて利用するよう
にしたいものです。

訂正 前号記事移動図書
館日程表の、小桜
(支所前)は、小幡(支所前)
また、戸数と人口(二月末)
は(十二月末)の誤りにつき
訂正します。